

太田Basic

－ 学 習 習 慣 －

学習の約束

(1) 基 本

- ・前日の教科連絡を確実にいき、教科毎に指示された用具をデイリーライフに忘れずに書く。
教科等の学校で必要なものは、前日のうちに準備するようにする。
- ・中学校はノーチャイム。始業時間を守り、授業の準備をして3分前には着席をする。
- ・机上に鉛筆、シャープペン、三角定規、コンパス、定規、消しゴム等必要な物だけを置く。
(筆入れ、ペンケースは机の中にしまう)
- ・教室の移動は速やかに行う。
- ・活動の始めと終わりは元気にあいさつをする。しっかりとした号令で一人一人が声を出す。

(2) 話の聴き方

- ・話している人に体を向けて聞く。
- ・相手の意見を共感的に受け止め、自分の考えとの類似点や相違点を考えながら聞く。
- ・必要に応じてメモをとりながら聞く。

※授業と関係ない私語・無駄話、ざわつきはしない！

(3) 発表の仕方

- ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をしてその場に立つ。
- ・先生にではなく、他の生徒に対して（他の生徒を見て）場に応じた適切な声量で話す。
- ・「結論」「要点」「理由」の順で話すようにする。
- ・根拠を示しながら、論理的に(相手が納得するように)自分の考えを伝える。

(4) 書き方

- ・正しい姿勢で丁寧に書く。
- ・ノートは板書を基に、自分なりに要点等を工夫して書く。
- ・本時の「課題（めあて）」は赤で囲み、「まとめ」は青で囲む。

※機を捉えて生徒同士がノートを交換し合い、評価したり参考にしたりする。

授業の進め方

太田中学校の重点

授業で目指す生徒の姿

- 太田abilityを高めようとする生徒
「見える学力」「秘めた学力」「将来に生きる学力」を高めようとして進んで学ぶ生徒
- 問いを発する・質問できる生徒
問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく生徒
- 仲間と学び合える生徒
自分から働き掛けて友達やモノとの関わり、協同で課題に挑戦しながら自分の力を高めようとする生徒
- 適切に自分を表現できる生徒
自分の意見や考えをもち、相手意識、目的意識、場面状況・条件意識に基づいて各教科における見方・考え方を働かせて適切に表現することができる生徒

問いを発し、学び合いながら課題解決を図るために

- ・失敗や間違い、多様な考えが受容される学習集団を育てる
- ・学習課題を意識させながら学習を進める（意欲を喚起し、必要感がもてる課題設定に）
- ・「課題（めあて）」は、「〇〇しよう。」のレッツ型から、「〇〇するには、どうすればよいのだろうか。」「なぜ〇〇なのだろうか。」の疑問型（ハウツー型）にシフトする
- ・生徒にとっての学習のゴールを明確にする（1単位時間で身に付けたい力を明確にする）
※「課題（めあて）」と「まとめ」を整合させる
- ・自力解決の場と時間（制限時間内に考える力を育てる）を設定する
- ・他者と関わって思考し、判断し、表現するなどの言語活動の充実を図る
- ・各教科における見方・考え方を働かせる場を意図的に設定する
- ・視点を明確にした学び合いを充実させる（ペア・グループ・全体形態の工夫）

①学びの作法

- ・分からないとき、自分から仲間に訊く
- ・訊かれたら相手が納得するまできちんと説明する
- ・分かった人から「教えてあげる」とは言わない

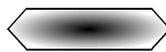
②分かるということの段階

- ↑ 分かってできるレベル
- ↓ 分かっていることを説明できるレベル
- ↓ 分かっていることを教えることができるレベル
- ↓ 分かっていない子の問いに対応し、援助できるレベル

③話しやすい・聞きやすい環境づくり

「ねえ、ここどうするの？」

「分からないから、教えて」



「どこで困っているの？」

「分からないところない？」

- ・1時間の流れが分かるように、構造的な板書を工夫する
- ・適切に生徒の状況を見取り、学びが深まる発問や問い返しを工夫する
- ・振り返りの場面を設定し、自己評価・相互評価を図ることで自身の成長や学びを実感させる
- ・振り返りを生かして、新たな疑問(問い)を見出すなど、今後の学習への意欲付けを図る（生徒が自らの学びを調整することができるようにする）

適切に自分を表現できるように

- ・一人一人が活躍する場や他者から認められる場を設定する
- ・自分の考えを書く場面と時間、自分の考えを誰かに伝える場面と時間を区別する
- ・各教科における見方・考え方を働かせながら表現できるように支援する